

The Emerging Market Weekly

国際為替部
マーケット・エコノミスト
佐々木 貴彦
03-3242-7065
takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周
03-3242-7065
amanne.saito@mizuho-bk.co.jp

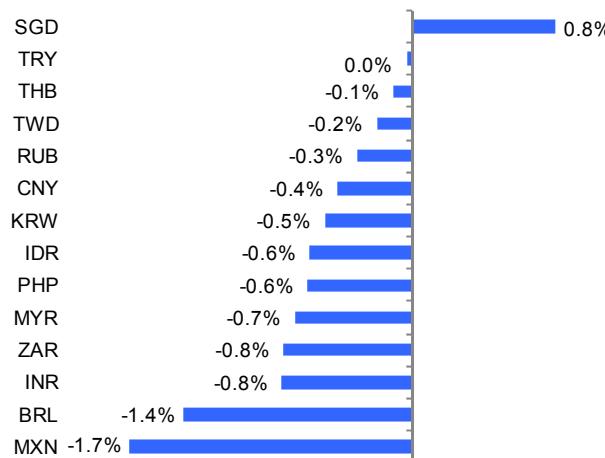
今週のエマージングマーケット

今週の新興国通貨は、英国の EU 離脱に対する懸念から売られる展開に

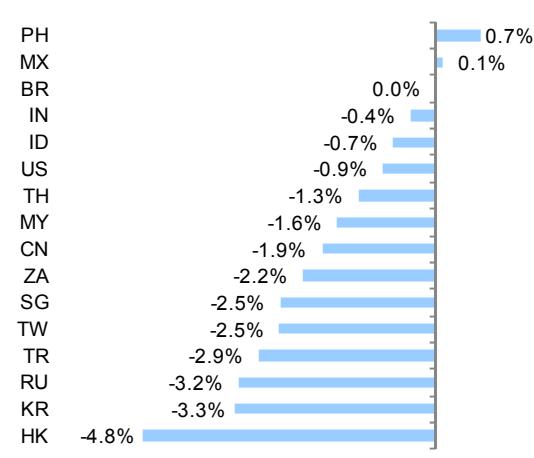
今週の新興国通貨は、大半の通貨が下落した。先週末は、英国における複数の世論調査で EU 離脱 (Brexit) 派の支持率が残留派を上回ったことが明らかになると、リスクオフムードが市場に拡がり、新興国通貨は下押しされた。週初もリスクオフムードが継続する中、中国経済指標の冴えない結果が発表されるも、市場予想との乖離幅が小さかったため、市場の反応は限定的だった。14日、米5月小売売上高が市場予想を上回るも、FOMC を前に主だった新興国通貨の値動きが限定的となる中、原油価格の下落に連れて資源国通貨は値を下げた。15日のFOMCでは、市場予想通り政策金利は据え置きとなるも、政策金利見通し（ドットチャート）において年内1回利上げを予想するメンバーが前回（3月）の1人から6人に増えたことなどを背景に、ドルは下落。新興国通貨は買われるも、来週の英国における国民投票を控えて、上昇幅は限定的となった。

個別通貨で見ると、Brexitへの懸念に加え、商品価格が下落したことでの資源国通貨のMXN（▲1.7%）、BRL（▲1.4%）、ZAR（▲0.8%）、MYR（▲0.7%）、IDR（▲0.6%）が軟化した。また、INR（▲0.8%）は市場にリスクオフムードが拡がる中、輸入業者からのドル買い需要も相俟って値を下げた。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注)US:米国S&P500種指数、CN:中国上海総合指数、HK:香港ハンセン指数、IN:インドSENSEX30種指数、ID:インドネシアジャカルタ総合指数、KR:韓国総合株価指数、MY:マレーシアFTSEブルサマレーシアKLCIインデックス、PH:フィリピン総合指数、SG:シンガポールST指数、TW:台湾加権指数、TH:タイSET指数、RU:ロシアRTS指数、ZA:南アフリカFTSE/JSEアフリカ全株指数、TR:トルコイスタンブルナショナル100種指数、BR:ブラジルボベスパ指数、MX:メキシコボルサ指数

(資料)ブルームバーグ

エマージングマーケット短期見通し

Brexit が新興国通貨を下押しする

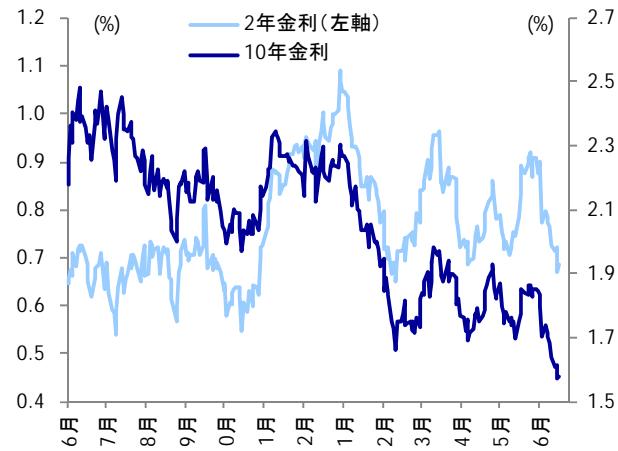
今週の新興国通貨は、英国の国民投票に向けた複数の世論調査で離脱派が優勢との結果を受けて、リスク回避の流れから大半の通貨は売られる展開となった。また、原油価格が週を通して軟調推移だったことも、資源国通貨を始めとした新興国通貨の下押し要因となった。もっとも、14日～15日に開催された FOMC において、年内1回利上げを予想するメンバーが1人から6人に増えたほか、2017年以降のドットチャートが下がるなどハト派な内容が見られたことで、急落は避けられた。

英国の国民投票に向けて新興国通貨は軟調推移か

来週は23日（木）の英国におけるEU離脱を問う国民投票が、新興国通貨における最大の注目材料となるだろう。離脱が決定されれば、英国は里斯ボン条約が失効する2018年6月までに、EUと政治・経済協定を結び直さなければ、現在享受している特恵を失ってしまう。だが、離脱という前例を作った英国に対し、EUは容赦しない可能性が高く、締結に向けた交渉は難航を極めると予想される。そのため、英国経済や欧州の金融システムそのものに対する不透明感が高まり、市場参加者は新興国資産や通貨を始めとしたリスク資産の保有額を減らそうとするだろう。一方、離脱が否決された場合は、不透明感の後退から、新興国通貨は大きく買われるを考えている。投票結果によってその後の値動きが全く変わることが予想される中、大勢が判明する日本時間の24日昼過ぎまで、新興国通貨に対するポジションを縮小させる動きが目立つと見る。しかしながら、ポジション調整の進展と共に、24日に向けて動意は乏しくなっていくと予想する。

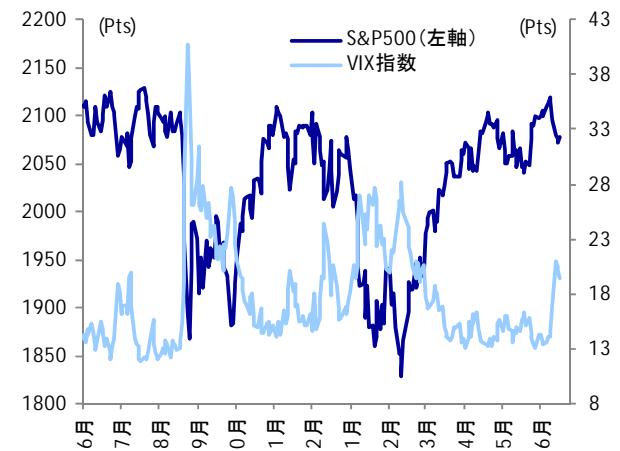
なお、16日にEU残留派の英下院議員が射殺されたことを受けて、Brexit派もEU残留派もキャンペーンを一時中止することが発表された。一部では、投票延期もありうると指摘されており、Brexitを巡る市場の不安定化が長続きする可能性も浮上している。

図表1：米国債利回りの推移（過去1年間）



(資料)ブルームバーグ

図表2：米株とVIX指数の推移（過去1年間）



(資料)ブルームバーグ

エマージングマーケット:国別の注目材料

トルコ: 金融政策決定会合プレビュー

金利コリドーの上限が引き下げられる見込み

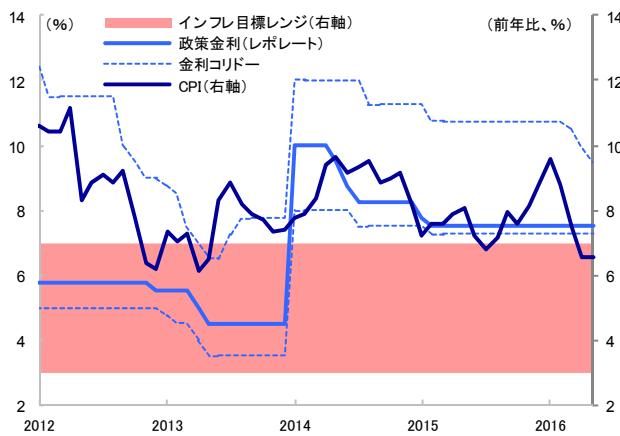
21日（火）に開催されるトルコ中銀（CBRT）の金融政策決定会合では、政策金利であるレポレートは現状の **7.50%**に据え置かれるも、金利コリドーの上限であり、市場金利が連動する翌日物貸出金利が **50bp** 引き下げられ、**9.00%**になると予想する。前回会合（5月24日）では翌日物貸出金利が引き下げられ **9.50%**となる一方、レポレートとコリドー下限である翌日物借入金利は据え置かれ、コリドーは **2.25%**ポイントから **1.75%**ポイントに縮小した。声明文では、消費者物価指数（CPI）が生鮮食品の価格下落を背景に低下しているものの、コアCPIの減少幅は限定的となっていることから、引き締めスタンスを継続する必要があるとした。会合後の6月3日に発表されたトルコ5月CPIは前年比+**6.6%**と4月（同+**6.6%**）からほぼ横這いとなる一方、コアCPIは同+**8.8%**と3か月連続で減速した。同結果を受けて、6日に発表されたCBRTの月次物価報告書では、「コアCPIの低下基調は鮮明になりつつある」と記された。コアCPIは依然として高水準であるものの、低下基調に入りつつあることを受けて、CBRTは金利コリドー上限の引き下げを継続するだろう。

タイ: 金融政策決定会合プレビュー

BOTは金融政策の維持を決定すると予想

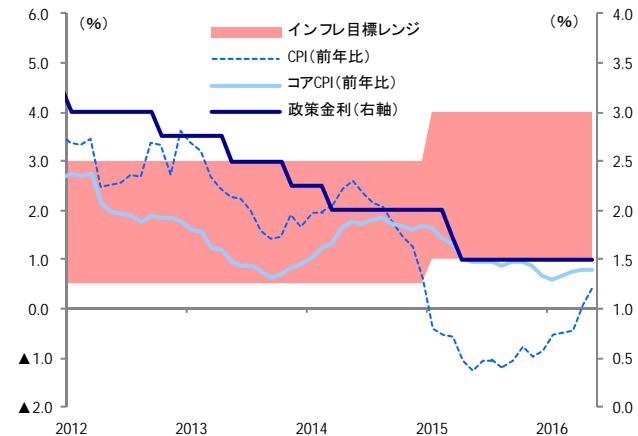
22日（水）に開催されるタイ中銀（BOT）の金融政策決定会合では、政策金利が **1.50%**に据え置かれると予想する。前回会合（5月11日）でBOTは、全会一致で政策金利の据え置きを決定した。声明文においては、タイ経済は政府支出と観光業に支えられ緩やかに回復しているとする一方、経済の下振れリスクは高まっているとの認識を示した。会合後の5月16日に発表されたタイ1～3月期GDPは、政府支出や輸出の回復を背景に前年比+**3.2%**と2015年10～12月期（同+**2.8%**）から加速した。しかしながら、その後に発表された経済指標は、4月輸出が前年比▲**7.6%**と2か月連続で

図表3: トルコ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表4: タイ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

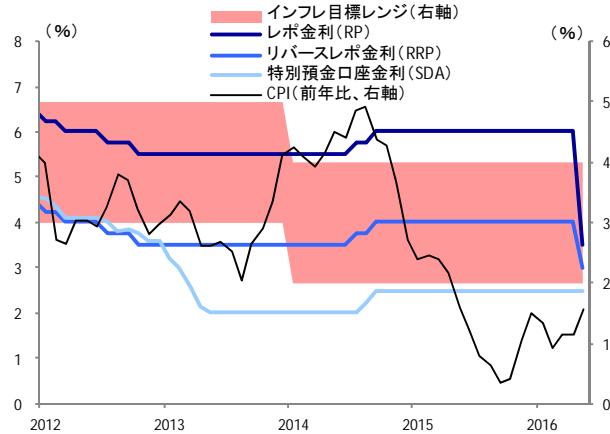
減速し、5月消費者信頼感も、干ばつの影響などを背景に72.6と5か月連続で低下するなど、冴えない結果が続いている。BOTの追加利下げを後押しする材料は出つつあるものの、タイ5月CPIが前年比+0.5%と6か月連続で加速しており、また政策金利は過去最低の1.25%に近づきつつあることから、更なる利下げには慎重になると考える。実際、1日にウィラタイBOT総裁は、「金融政策は依然として緩和的で、2016年のGDP成長率は引き続き+3.1%になると見込む」と利下げの必要性が低いとの認識を示しており、今回の会合で政策金利の変更が行われる可能性は低いと考えている。

フィリピン：金融政策決定会合プレビュー

堅調なファンダメンタルズを背景にBSPは政策据え置きか

23日（木）に開催されるフィリピン中銀（BSP）の金融政策決定会合では政策金利の翌日物借入（RRP）金利及び特別預金口座（SDA）金利の据え置きを予想する。BSPは5月16日に金利コリドー導入を発表し、RRP金利を4.00%から3.00%へ、コリドーの上限となる翌日物貸出（RP）金利を6.00%から3.50%へ引き下げた。もっとも、市場で実質的な政策金利と見られてきたSDA金利はコリドーの下限として2.50%に据え置かれており、金融政策スタンスは維持されている。なお、一連の政策変更の結果、コリドーは3.50%ポイントから1.00%ポイントに縮小している。その後に発表された経済指標を見ると、5月CPIは前年比+1.6%と4月（同+1.1%）から加速したものの依然としてBSPの目標（+2～4%）を下回った。また、1～3月期GDPは同+6.9%（10～12月期：同+6.5%）と加速し、4月輸出も同▲4.1%（3月：同▲15.1%）とマイナス幅が縮小するなど景気は堅調に推移している。そのため、BSPが金融政策の変更を行う必要性は乏しく、金融政策を据え置くと予想する。

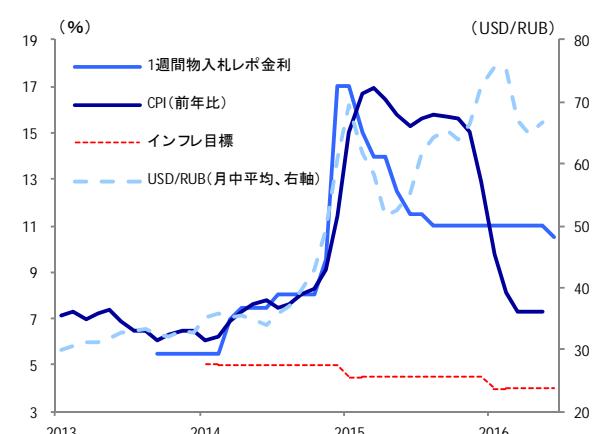
図表5：フィリピン 政策金利と消費者物価指数（CPI）



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

（注）金利コリドーの上限がレポ金利、下限が特別預金口座金利

図表6：ロシア 政策金利と消費者物価指数（CPI）



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

ロシア：金融政策決定会合レビュー

CBR は利下げプロセスに入った
模様

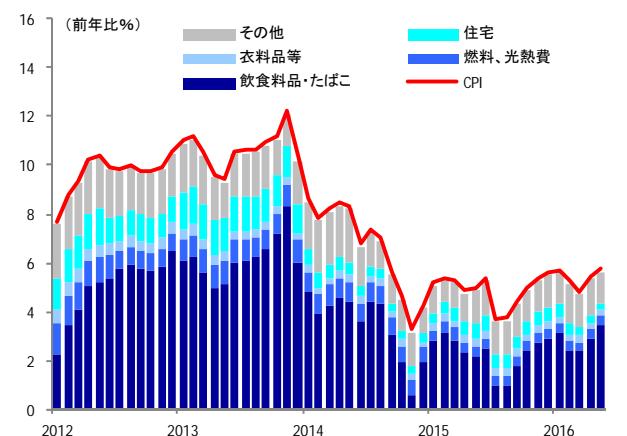
10 日に開催されたロシア中銀 (CBR) の金融政策決定会合では、政策金利が 11.00% から 10.50% に 50bp 引き下げられた。利下げは 2015 年 7 月 31 日以来 7 会合ぶりで、かねてから景気下支えを理由に利下げ余地を探ってきた CBR がようやく利下げを行えた格好だ。声明文では、利下げ判断の理由として①インフレ率やインフレ期待の低下、②インフレ率の高騰を伴わない景気回復の動きが見られること、③インフレ率が 2017 年に目標である +4% に収束する可能性が高まったこと、④実質金利の高止まりを背景に金融環境が引き締め的であることが挙げられている。CBR は足許にかけての商品価格上昇を背景に 2016 年末のインフレ見通しを +5~6% に引き下げており、原油価格 40 ドル/バレル程度を先行き予測の前提にしている模様だ。もっとも、ここもとではブレント油価格は 50 ドル/バレル付近で推移している。CBR はインフレ率が予想に沿って推移する場合、更なる利下げを行う姿勢を示しているが、堅調な原油価格はループル高に繋がり、輸入物価の低下を通して国内のインフレ率を押し下げる効果がある。原油価格の回復を受けたインフレ率の安定を背景に CBR は利下げを継続するだろう。

中国：内需に関する経済指標は懸念を残す結果に

固定資産投資と小売売上高が
減速

13 日に発表された一連の経済指標では、5 月小売売上高が前年比 +10.0% と 4 か月連続で減速し、5 月固定資産投資も年初来前年比で同 +9.6% と 2000 年 5 月以来の低い伸びとなった。特に固定資産投資をけん引していた不動産投資が同 +7.0% と 4 月（同 +7.2%）から伸び率が縮小したことは気がかりである。不動産市況の先行きを示す新築不動産販売面積は、5 月に前年比 +22.0% と 3 か月ぶりに減速しており、今後も固定資産投資を下支えできるか懸念が高まっている。一方で、同日に発表された 5 月鉱工業生産は前年比 +6.0% と前月（同 +6.0%）から横ばいとなった。産業別内訳

図表 7：インド 消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 8：中国 固定資産投資と小売売上高



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

を見ると、過剰設備を抱える鉱業が大幅に減速するも、輸出の回復を背景に製造業を中心に伸びが大きく拡大した。これまでの中国経済は、外需が減速する中、内需が下支えるという構図が続いてきた。足許は、内需を支えてきた不動産投資が減速の兆しを見せているため、今後については外需と生産の持ち直しが続かない限り、中国経済に対する懸念は高まっていくと考える。

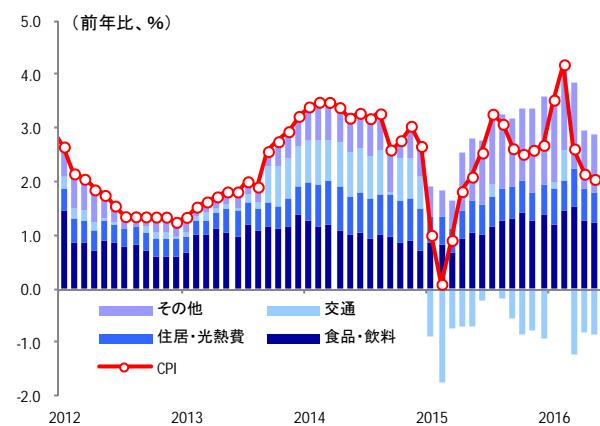
なお、今週は新興国株の指標として注目されている MSCI 算出のグローバル新興国株指数に、中国本土の人民元建て株式（中国 A 株）が組み入れられるか否かが市場参加者から注目されていたが、14 日に見送りが決定された。見送りになるのは今回で 3 回目であったほか、来年ないしはそれより早い段階で組み入れの再検討を行うと MSCI が示唆したため、人民元相場の反応は限定的だった。今回の見直しに向けて中国当局は国内への投資枠の付与や資本移動に関する規制緩和を行っていたが、本国への資金還流制限などが見送りの要因となった模様だ。中国政府としては、引き続き組み入れを目指すものと見られる。しかしながら、Brexit に対する懸念の高まりを背景に CNY 安圧力がかかる中、組み入れのために資本規制を緩和させれば資本流出を招きかねないため、政府は難しい舵取りを強いられている。

インド：インフレ圧力が高まる

インフレ圧力上昇によって RBI の利下げ余地は縮小

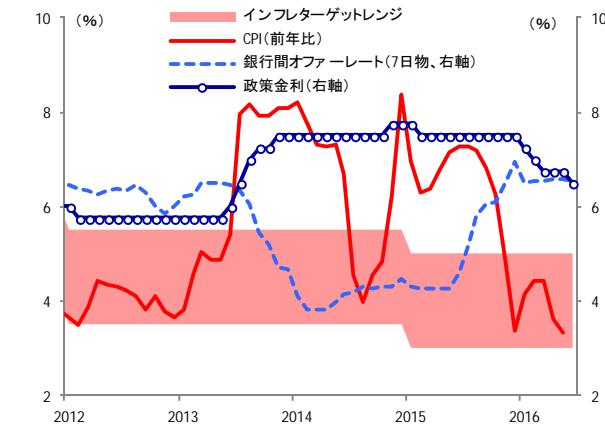
13 日に発表されたインド 5 月 CPI は前年比 +5.76% と 4 月（同 +5.39%）から 2 か月連続で伸び率が拡大した。内訳を見ると、燃料・光熱費や衣料品・寝具、運輸・通信などでは上昇ペースが鈍化した一方、野菜を中心に飲食料品・たばこが同 +7.55% と 4 月（同 +6.40%）から大幅に加速している。インド準備銀行（RBI、中央銀行）は 7 日の会合声明文にて引き続き緩和的な政策スタンスを探るとしており、我々はモンスーン期（雨期）における

図表 9：マレーシア 消費者物価指数(CPI)



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 10：インドネシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

る例年以上の降雨量を受けた農業生産の増加と、それに伴う食料品価格の低下を背景に、夏場以降に RBI が利下げに踏み切ると考えている。しかし、モンスーン期を終える前に食料品価格の上昇ペースが加速し、原油価格が反発することでインフレ率が高まった場合には、夏場以降の利下げ余地は大きく縮小するだろう。

マレーシア： CPI は減速が続く

GST 導入前の駆け込み需要に伴うベース効果剥落が続く

15 日に発表されたマレーシア 5 月 CPI は前年比+2.0% と 4 月（同+2.1%）から僅かに鈍化した。昨年 4 月導入の物品・サービス税（GST）導入前の駆け込み需要によるベース効果剥落に伴い、CPI は 2 月（同+4.2%）から減速が続いている。内訳を見ると、アルコール飲料・たばこが同+22.1%（4 月：同+20.1%）と大幅に加速した。一方、原油価格の下落を背景に交通は同▲5.6%（4 月：同▲5.5%）と伸び率が縮小した。また、通信も同▲2.2%（4 月：同▲2.1%）とマイナス幅を拡大している。インフレ圧力の後退が鮮明となっているほか、ムハンマド・マレーシア中銀（BNM）総裁は、「今年後半から景気は回復する」と経済成長の加速に自信を見せている。そのため、BNM は当面の間、政策金利を据え置き続けるだろう。

インドネシア： 金融政策決定会合レビュー

成長を加速させるため、BI は政策金利の引き下げを決定

16 日に開催されたインドネシア中銀（BI）の金融政策決定会合では、政策金利である BI レートが 6.50% と 25bp 引き下げられた。8 月 19 日から新たな政策金利として適用される 7 日物リバースレポ金利も 5.50% から 5.25% に引き下げられている。このほか、不動産融資に際し、不動産価値に対する借入金（LTV）比率の+5～15% 引き上げや、預貸比率の引き上げも合わせて発表されるなど、BI の積極的な緩和姿勢が示された。声明文では、インフレ率が BI の目標（+3～5%）内で推移していることや、経常赤字の縮小傾向及び IDR が安定していることなど、インドネシア経済の安定性が増していることが言及された。一方で、非建設投資が改善の兆しを見せず、輸出産業も伸びが限定的となっていることが懸念事項として指摘されており、BI は国内需要の拡大を確かなものにするべく、一連の緩和策を実行したと述べた。インドネシア 5 月 CPI は前年比+3.3% と 2 か月連続で減速し、BI の目標内に収まり続けた。インフレ率が減速傾向を見せ始めており、また米利上げ姿勢の後退に伴い IDR への売り圧力は後退しつつある。こうした状況を受けて、BI は景気成長を下支えするために、引き続き利下げの機会をうかがっていくだろう。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
6月10日 (金)	フィリピン	4月 輸出(前年比)	-4.7%	-4.1%	-15.1%	--
10日 (金)	インド	4月 鉱工業生産(前年比)	0.6%	-0.8%	0.1%	0.3%
13日 (月)	中国	5月 鉱工業生産(前年比)	6.0%	6.0%	6.0%	--
13日 (月)	中国	5月 小売売上高(前年比)	10.1%	10.0%	10.1%	--
13日 (月)	インド	5月 消費者物価指数(前年比)	5.6%	5.8%	5.4%	5.5%
14日 (火)	インド	5月 卸売物価(前年比)	0.5%	0.8%	0.3%	--
15日 (水)	インド	5月 貿易収支	-\$6000	-\$6272.9	-\$4844.9	--
15日 (水)	中国	5月 新規貸出(人民元)	750.0b	985.5b	555.6b	--
15日 (水)	マレーシア	5月 消費者物価指数(前年比)	2.0%	2.0%	2.1%	--
15日 (水)	シンガポール	4月 小売売上高(除自動車/前年比)	-2.3%	-3.0%	-2.2%	-0.021
15日 (水)	インドネシア	5月 貿易収支	\$723m	\$376m	\$667m	\$662m
15日 (水)	フィリピン	4月 海外送金(前年比)	7.5%	4.1%	1.5%	-0.012
16日 (木)	インド	1Q 国際収支:経常収支	\$1.8b	-\$0.30b	-\$7.07b	-\$7.10b
16日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行レラシス・レート	6.75%	6.50%	6.75%	--
17日 (金)	シンガポール	5月 非石油地場輸出(前年比)	-1.6%	--	-7.9%	--
20日 (月)	フィリピン	5月 総合国際収支	--	--	\$184m	--
22日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	1.50%	--	1.50%	--
23日 (木)	シンガポール	5月 消費者物価指数(前年比)	--	--	-0.5%	--
23日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	3.00%	--	3.00%	--
23日 (木)	フィリピン	BSP特別預金口座金利	--	--	2.50%	--
24日 (金)	フィリピン	4月 貿易収支	--	--	-\$1747m	--
24日 (金)	シンガポール	5月 鉱工業生産(前年比)	--	--	2.9%	--
24日 (金)	タイ	5月 貿易収支(通関ベース)	--	--	\$721m	--
中東欧・アフリカ						
6月10日 (金)	トルコ	4月 経常収支	-3.40b	-2.96b	-3.68b	-3.69b
10日 (金)	トルコ	1Q GDP(前年比)	4.4%	4.8%	5.7%	--
10日 (金)	ロシア	主要金利	10.50%	10.50%	11.00%	--
10日 (金)	ロシア	3月 貿易収支	9.2b	6.8b	7.7b	--
14日 (火)	南アフリカ	1Q 経常収支	-168b	-211b	-208b	-191b
15日 (水)	南アフリカ	4月 小売売上高(実質値、前年比)	2.5%	1.5%	2.8%	2.9%
15日 (水)	ロシア	1Q GDP(前年比)	-1.2%	-1.2%	-1.2%	--
16日 (木)	ロシア	5月 鉱工業生産(前年比)	0.8%	0.7%	0.5%	--
20日 (月)	ロシア	5月 実質小売売上高(前年比)	-4.8%	--	-4.8%	--
21日 (火)	トルコ	指標レート	--	--	7.50%	--
21日 (火)	トルコ	翌日物貸出金利	--	--	9.50%	--
21日 (火)	トルコ	翌日物借入金利	--	--	7.25%	--
22日 (水)	トルコ	6月 消費者信頼感指数	--	--	68.8	--
22日 (水)	南アフリカ	5月 消費者物価指数(前年比)	6.4%	--	6.2%	--
ラテンアメリカ						
6月14日 (火)	メキシコ	4月 鉱工業生産(季調前/前年比)	0.8%	1.9%	-2.0%	-1.9%
14日 (火)	ブラジル	4月 広義小売売上高(前月比)	-0.9%	-1.4%	-1.1%	-1.3%
21日 (火)	ブラジル	6月 IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	9.6%	--
23日 (木)	メキシコ	4月 経済活動IGAE(前年比)	--	--	1.2%	--
24日 (金)	メキシコ	4月 小売売上高(前月比)	--	--	3.0%	--
24日 (金)	ブラジル	5月 経常収支	--	--	\$412m	--

(注)2016年6月17日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。

(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

	2016年 1~5月(実績)		SPOT	2016年	9月	12月	2017年	6月		
	6月	9月		3月			3月			
対ドル										
エマージングアジア										
中国人民元	(CNY)	6.4528	~	6.5962	6.5915	6.55	6.52	6.48	6.45	6.42
香港ドル	(HKD)	7.7488	~	7.8295	7.7593	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.071	~	68.789	67.278	68.0	66.5	64.5	63.5	62.0
インドネシアルピア	(IDR)	12984	~	14002	13375	13600	13300	13000	12850	12500
韓国ウォン	(KRW)	1128.43	~	1245.13	1171.38	1190	1210	1190	1170	1150
マレーシアリンギ	(MYR)	3.8442	~	4.4415	4.1000	4.10	4.05	3.90	3.87	3.85
フィリピンペソ	(PHP)	45.900	~	48.069	46.407	47.0	46.4	45.7	44.8	43.9
シンガポールドル	(SGD)	1.3352	~	1.4444	1.3488	1.38	1.36	1.35	1.33	1.32
台湾ドル	(TWD)	32.150	~	33.791	32.384	32.70	33.10	32.70	32.30	31.90
タイバーツ	(THB)	35.65	~	36.42	35.31	35.9	35.6	34.9	34.7	34.5
ベトナムドン	(VND)	22059	~	22563	22303	22400	22300	22300	22400	22150
中東欧・アフリカ										
ロシアルーブル	(RUB)	63.9923	~	85.9573	65.7374	65.00	63.00	60.00	63.00	63.00
南アフリカランド	(ZAR)	14.1152	~	17.9169	15.3394	16.00	16.50	16.50	17.00	17.00
トルコリラ	(TRY)	2.7901	~	3.0614	2.9317	2.90	3.10	3.30	3.40	3.50
ラテンアメリカ										
ブラジルレアル	(BRL)	3.4294	~	4.1720	3.4660	3.55	3.64	3.70	3.71	3.74
メキシコペソ	(MXN)	17.0507	~	19.4448	18.9348	18.40	18.40	18.20	17.90	17.60
対円										
エマージングアジア										
中国人民元	(CNY)	16.308	~	18.563	15.815	16.79	16.56	16.36	16.12	15.89
香港ドル	(HKD)	13.604	~	15.615	13.454	14.18	13.92	13.66	13.40	13.14
インドルピー	(INR)	1.591	~	1.823	1.551	1.62	1.62	1.64	1.64	1.65
インドネシアルピア	(100IDR)	0.798	~	0.896	0.781	0.809	0.812	0.815	0.809	0.816
韓国ウォン	(100KRW)	8.990	~	10.267	8.910	9.24	8.93	8.91	8.89	8.87
マレーシアリンギ	(MYR)	26.326	~	29.357	25.394	26.83	26.67	27.18	26.87	26.49
フィリピンペソ	(PHP)	2.250	~	2.570	2.244	2.34	2.33	2.32	2.32	2.32
シンガポールドル	(SGD)	78.19	~	85.54	77.39	79.71	79.41	78.52	78.20	77.27
台湾ドル	(TWD)	3.279	~	3.671	3.223	3.36	3.26	3.24	3.22	3.20
タイバーツ	(THB)	3.026	~	3.412	2.955	3.06	3.03	3.04	3.00	2.96
ベトナムドン	(100VND)	0.4737	~	0.5482	0.4678	0.49	0.48	0.48	0.46	0.46
中東欧・アフリカ										
ロシアルーブル	(RUB)	1.359	~	1.718	1.588	1.69	1.71	1.77	1.65	1.62
南アフリカランド	(ZAR)	6.525	~	7.805	6.810	6.88	6.55	6.42	6.12	6.00
トルコリラ	(TRY)	35.914	~	41.265	35.597	37.93	34.84	32.12	30.59	29.14
ラテンアメリカ										
ブラジルレアル	(BRL)	27.727	~	31.825	30.126	30.99	29.67	28.65	28.03	27.27
メキシコペソ	(MXN)	5.765	~	7.018	5.513	5.98	5.87	5.82	5.81	5.80

(注)1. 実績の欄は5月31日まで。SPOTは6月17日の8時20分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。